

◆◆◆ 「JPEG形式の気象衛星画像データ」配信開始

— より使い易い気象衛星「ひまわり」の画像の提供へ —

本年5月6日（金）から、HRIT形式の気象衛星画像データに加えて、JPEG形式の気象衛星画像データ配信を開始しました。静止気象衛星「ひまわり」からの観測データとして従前から当センターより配信されているHRIT形式のデータは、利用者が自在に高分解能画像等に加工・処理できる一方で、そのためにはデータのフォーマットと内容や画像投影法についての詳しい知識と高度なプログラミング技術を要します。それに比べ、今般配信の対象となったJPEG形式のデータは、画像そのものでかつデータ量が少なく通信回線への負荷が軽いなど、その取り扱いが容易であるとともに、以下の各種類の投影法による画種が用意されています。

- ・標準投影全球（可視、赤外1、赤外3、赤外4の各チャンネルの画像）
- ・東アジア領域ポーラステレオ投影（可視、赤外1、赤外3、赤外4）
- ・北東日本領域ポーラステレオ投影（可視）
- ・南西日本領域ポーラステレオ投影（可視）
- ・北東・北西・東アジア正方格子投影
（可視、赤外1、赤外3、赤外4）
- ・南東・南西・オセアニア正方格子投影
（可視、赤外1、赤外3、赤外4）

右の図は、このうちの東アジア領域ポーラステレオ投影の画像（赤外1）に速報天気図を重ね合わせてみたものです。Windowsの汎用ソフトウェアのなかの写真や図の編集ツールを利用して比較的簡単にこのような合成図を作成することが可能です。新しく提供されるJPEG形式の衛星画像データは、それ独自の利用はもとより天気図や解析図との重ね合わせにより、実況の把握等にも大いに役立つものと期待されます。

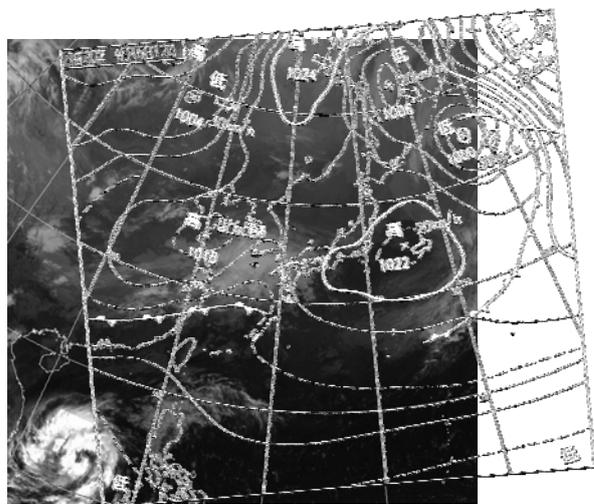


図 衛星画像と速報天気図の合成（本年4月16日03Z）